

令和3年度 茨城高等学校・中学校 学校自己評価

教育目標	創立者飯村文三郎先生による建学の精神「報恩感謝」を礎とした、確固たる教養と豊かな人間性を兼ね備えた社会報恩の念に篤い人物を育成する。 校訓「真理と正義を愛する」「強健な身体と不屈の精神を養う」「協同友愛の念を厚くする」の理念を教育活動を通じて実現し、知・徳・体の調和した、社会のリーダーたる有為な人材を育成する。		
中期的目標	1 中高一貫教育を推進し、高い学力と豊かな人間性にもとづく人間的成長を支援する規律ある進学校を目指す。 2 明確な職業観にもとづき能動的に学び続けることのできる人物を育成し、生徒自身の主体的な判断による大学進学、将来の職業選択へと導く。 3 生徒一人一人に寄り添いながら個性を尊重する教育を実践し、保護者や地域と連携し、信頼される学校づくりを目指す。 4 弘道館から受け継ぐ歴史と伝統を尊重するとともに、新たな教育の可能性を追求し持続的な学校改革を実行する。		
前年度の成果と今後の課題	【成果】 ・ICT教育の拡充、探究型授業の充実などの取り組みにより、大学入試新制度に対応する態勢を築いた。 ・令和3年度より、中学全学年、高校第1学年に個人用学習端末を導入する制度整備を行った。 ・進路指導部、学年、教科の連携の中で、東京大学、東北大学等の旧帝大をはじめとする国公立大や、早稲田大学、慶応大学をはじめとする難関私立大学への多数の合格を実現した。 ・医学コースによる、医学部医学科ならびに医療系学部進学を目指す生徒を支援する教育活動を行い、複数の大学の医学部医学科への合格を実現した。 ・医学コースでの学びを発展・充実させ、将来の茨城県の地域医療の充実に寄与することを目的に、国立病院機構水戸医療センターとの連携協定を活用した。 ・国際教養コースによる、多様な価値観に対応する柔軟性と、確固たるアイデンティティを兼ね備えた、報恩感謝の理念を世界で実践できるグローバル人材の育成を目指す取り組みを行った。 ・カリフォルニア大学デービス校との連携協定を活用し、国際教養コースでの学びを発展・充実させることができた。 ・別室登校制度やスクールカウンセラー制度の活用により、不登校生徒の支援を実行することで、中途転学や退学の生徒を大幅に減少させることができた。 ・全日研修制度を導入し、教職員の労働環境の改善を目指す取り組みを行った。 【課題】 ・生徒の学力を増進し、希望する進路を実現させるための、本校独自の教育システム、カリキュラムのいっそうの充実をはかる。 ・特に中高一貫第1期(中1・中2)の指導を充実させ、学力向上につなげるとともに、豊かな人間性の育成をはかる。 ・ICT機器を利用したグローバル時代の学力の育成を可能とするカリキュラムや教育内容の充実をはかる。 ・教職員の研修の機会を充実させ、個々の指導力を向上させることで、生徒提供する教育の質的向上をはかる。 ・教職員の働き方改革を推進し、労働環境を改善するとともに、教職員一人一人のコンプライアンス意識を向上させ、やりがいのある職場環境の実現をはかる。		
重点項目	重点目標	達成状況	
学習指導の充実	1 知的好奇心に富み、生涯を通じて学び続ける意志を有する生徒を育成するための教育活動を実施する。	A	A
	2 発達段階に応じた適切なカリキュラム、学校行事を通じ、生徒の個性や可能性を積極的に引き出す教育活動を実施する。	B	
	3 生徒一人一人の興味関心や進路希望を踏まえた多様な学びを可能とする教育活動を実施する。	A	
	4 ICTを利用した学習の機会を充実させ、ICTリテラシーを育む教育活動を実施する。	A	
学習環境の整備	1 ICT機器の導入をはじめとしたインフラの整備、拡充をすすめ、グローバル時代の学力の育成を可能とする教育環境の整備をはかる。	A	A
進路指導の充実	1 学習活動や学校行事を通じて生徒の職業観を育成し、生徒の主体的な判断による大学進学、将来の職業選択へと導く。	A	A
	2 進路指導部、学習指導部、学年、教科の連携のもと、大学入試新制度を踏まえた進路指導を充実させ、第1志望大学への合格を支援する。	A	
教職員の指導力の向上	1 生徒による授業評価を踏まえ、PDCAサイクルにもとづく授業研鑽を実行する。	B	A
	2 教職員の研修の機会を充実させ、個々の指導力を向上させることで、学校全体の教育の質的向上をはかる。	A	
校内ガバナンスの向上	1 学年、教科、校務分掌の活動を活性化し、かつそのバランスを管理することで、学校全体のガバナンスを向上させる。	A	A
	2 校務分掌内および校務分掌間における情報共有を推進し、課題に対して共通理解を持って対応する。	A	
健康安全指導・危機管理態勢の充実	1 生徒の健康情報を適切に活用し、生徒一人一人に応じた保健指導の充実をはかる。	A	A
	2 いじめの早期発見に努め、いじめが認知された場合は組織的調査および被害者の支援を行う。	A	
	3 不登校生徒に対する登校支援、教室復帰支援を充実させる。	B	
	4 職務上知り得た生徒個人情報等の管理および守秘義務遵守を徹底し、職員間のコンプライアンス意識の向上をはかる。	A	

評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている
D:不十分である E:まったく達成できていない